

企業等による地方創生 SDGs 調査・研究会(第 6 回)の開催結果について (概要)

○日時:令和 7 年 11 月 26 日 13:00-15:00

○場所:ハイブリッド(内閣府・オンライン)

○出席委員:竹ヶ原座長、大塩委員、蟹江委員、関委員、千田委員、菌田委員、月田委員、
平松委員、堀田委員、横山委員、宮垣委員

○議事総括:

多様なステークホルダーの参画による地方創生 SDGs の基本的な考え方の策定に向けて①

- 基本的な考え方の構成案及び地方創生 SDGs の全体像
- 地方創生 SDGs の主なプレイヤーとアプローチ方法
- 地方創生 SDGs の取組を支えるための施策

・ 委員からの意見は次のとおり

- 各団体のプレゼンで一番感じたのは、その人の熱量やパッション、人となりである。顔が見えることで感じられた部分を今回の資料へ盛り込むとよいのではないか。例えば、プレゼンされた方々の顔写真を入れることはできないか。この共通インプリケーションの図解はそれぞれの団体の取組や連携の仕組みを理解するには良いが、実際に発表した方が夢を持って話し、仕組みを作ってきたことが伝わると、さらに理解しやすい
- 情報が詰まっているため、実際にこれを活用してヒントを得る人が、文章を読み込まないと紐解けないものにならないようにしてほしい
- 誰に伝えたいのかが重要。キーマンに伝われば、その人が情熱を持って取組を進めてくれると思うので、そのような人達に届くような伝え方が重要
- 取組を進める際に、行政職員はまず「お金はどこか」を見る可能性が高い。また、既存の事業から別の事業に移ったのか、その理由や背景も重要。時間軸も事例によって異なるので、ゼロからスタートした事例なのか、蓄積があつての取組なのかをうまく表現できると良い
- 行政からすると、地域のステークホルダーとどの様につながればいいのかわからずに踏み出せないケースがある。官にはプラスだとしても、他のステークホルダーにはプラスと見えない可能性があるため、そのような情報があるとスムーズに取り組みを進めることができる
- 他の団体がそのまま真似できる点と、オリジナルだけでも「こういう要素があればモデルが機能する」という簡単な分析を入れた方が良いのではないか。また、対象別に、それぞれのステークホルダーからの視点を入れることで、見やすくする必要がある

- なぜ地方創生 SDGs を推進するのかという「一番上段の説明」が必要。関係者ならわかるが、一般の人も見ると「重要性」「目的」「効果」を示すスライドがあると良い
- 「読みやすさ」や「見やすさ」を追求するために、概要版と詳細版に分けるとよいのではないか
- キーマンとなるような方に基本的な考えを読んでもらえるように、A4 で 2 枚程度の模式的なポスターやチラシがあるとよいのではないか
- 多くの人は「全部自分でやらなければならない」と思っている。カネやヒトという資源がない中でどうにかしたいという人に向けて参考となるとよい
- これからチャレンジする人がこの基本的な考え方を見たときに、動き出した後、「どこにボトルネックがあり、どう乗り越えたか」を例示できると面白い

以上